

「みらい」南大洋航海 MR19-04

○勝又勝郎（海洋研究開発機構），熊本雄一郎・内田裕・瀨瀬慎也・
重光雅仁・笹岡晃征・濱名実（海洋研究開発機構）

MR19-04 航海第三レグはインド洋南西部ほぼ東経 57 度に沿った観測線に沿って南緯 30 度から南極大陸までの航海を行った。各種連続観測も行われている。各種フロートは 26 本投入。CTD（電気伝導度温度深度プロファイラ）と 36 本のニスキン採水器を用いた物理・化学観測を 30 海里ごとに行い随所で XCTD（投棄型電気伝導度温度深度プロファイラ）で空間分解能を補った。計画されていた 85 点のうち 79 点において表層から海底直上約 10 m までのデータを得た。荒天のため 2 点は観測不可能、3 点は CTD 予定を XCTD に代替して深度約 2000 m までの限られた観測、1 点は海氷に覆われていて観測不可能であった。絶対塩分の断面図を添付する。見どころは南緯 39 から 43 度にみられる亜南極前線である。あきらかにメソスケール渦の影響を受けており、その複雑な構造は従来の「前線は水平混合を抑制する」という説の再評価を促す。また、南極沿岸の七観測点は「みらい」MR12-05 航海の再観測であり 2012/13 以来の中層の温暖化と底層の低塩化を示している。

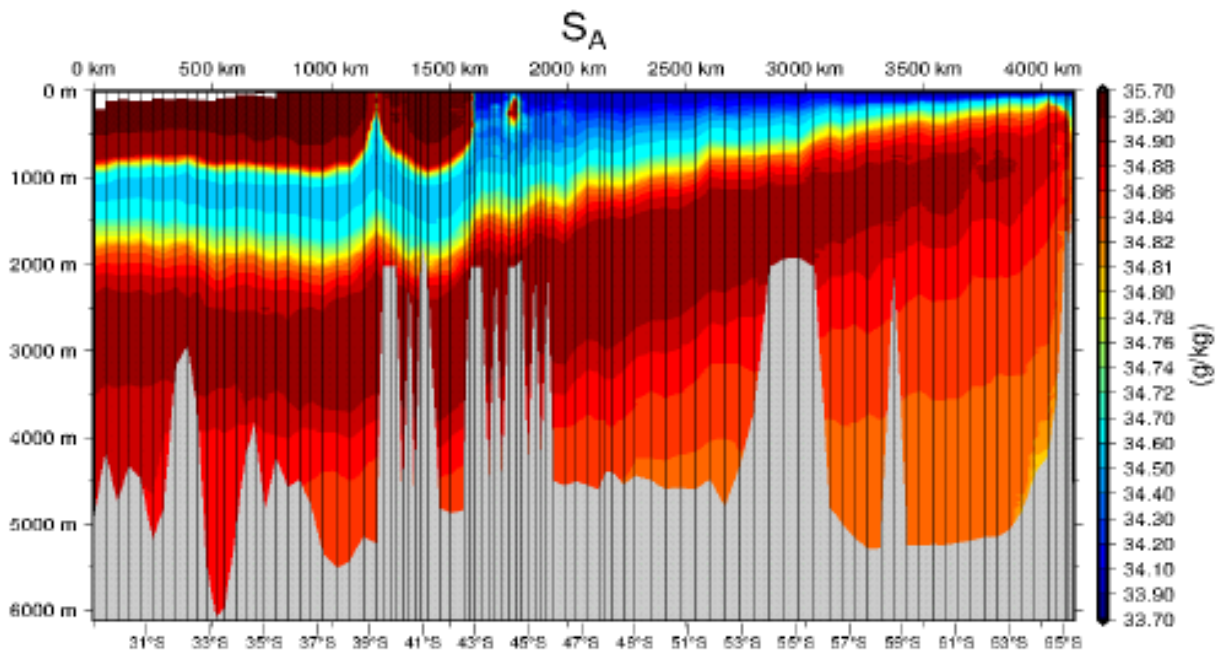


Figure 1. Absolute salinity along the hydrographic section I07S